

新年のご挨拶

昨年は、東北東日本大震災や台風など、自然の猛威をまざまざと知らされた1年でもありました。

災害にあわれた地域では、なにかとご不自由な日々を送られている事と思います。私達の方で、何かお力になれないかと考えています。1日も早く(もとの生活にもどり)、明るい1年になるよう祈念いたします。

さて、デフ・パペットシアター・ひとみも、昨年中は新たな若手メンバーが入り、平均年齢がぐっと下がりました。

一方、長年全国各地の公演を支えてくれた制作の森元氏も今年定年で、退職する事になります。頼りになるベテランが抜けるということは、とても寂しい事ですが、デフ創立の時も大変な状態からのスタートだったという話を聞きます。

現在、若手中堅ベテランと年齢様々のメンバーが揃い、これまでの経験を活かし、龍のように力強く天高く飛翔できる1年にしたいと思います。

本年もよろしくお祈りいたします。

デフ・パペットシアター・ひとみ代表 善岡修

日々制作...

制作メンバーのコラムです

by 大里千尋

デフパペニュースをご覧の皆様、はじめまして!

11月からデフ・パペットシアター・ひとみの制作に入りました、大里千尋です。

「デフに入った理由は？」とよく聞かれるのですが、私自身よく分かっていません。

気が付いたらデフにいて、あっという間に2か月がたとうとしているといった感じです。

あっという間の2か月間は、稽古を覗けば、普段は優しい役者の皆さんの真剣な表情に痺れ、手話を覚えることも、もっとたくさんの方と友達になれる!と思うと嬉しくて、楽しくて、1つでも多く、早く覚えたいと思う毎日でした。

デフに仲間入りして間もない私は、観劇に来てくださる皆様と一番近い感覚で、ワクワクしているスタッフのはずですので、お気軽にご感想やご意見を頂けたら嬉しいです。私が気付いていないことを皆様に教えて頂くこともきっと多いはずですよ。

皆様が楽しいと思う時間が1秒でも長くなるよう、頑張りますのでどうぞよろしくお祈り致します。

3ヶ月に一度のこんにちわ

デフパペメンバーが交代でお便りします。

「色と匂いを感じるということ」 by 富安優子

私は、季節ごとに感じられる色と匂いが好きです。

その中でも特に冬が好きです。

私が感じる冬の色は「透明」。綺麗な水・空・空気の色、「無」の色。どんな色に染まってもどこか澄んでいて、きちんと存在を感じさせています。

私が感じる冬の匂いは、朝の透き通った匂い・屋のお日様と土の匂い・夜の温かいご飯の匂い。時間によって変化する匂いに気づいた時の心が揺さぶられる瞬間が好きです。

さらに、匂いや色から季節を感じた瞬間に何とも言えない幸せを感じます。自分は生きているのだと実感します。

人は誰しも、映画やアニメや人形劇などを観ている時、知らぬ間に匂いや色を感じているのではないかなと思います。愛され続けている作品は、多くの人の心に共通した心地の良い色や匂いが存在しているのだと思います。

みなさんは、デフパペの作品をどんな色に感じますか? どんな匂いを感じますか?

デフパペの人形劇は、月日が経つにつれて作品の色や匂いに変化していきます。これは、私たちだけではなく、観て下さっている方々の色や匂いも力となっているように思います。みんなで創る舞台がデフパペの魅力なのだろうな...

これからもっとたくさんの方々に、色や匂いを感じて頂けるように、私自身もたくさんの方々の色や匂いを見つけて感じていこうと思います。

★お知らせ★

★人形劇団ひとみ座では、只今劇団研究生を募集中です。

4月から開講予定のひとみ座研究所で、人形劇を学んでみませんか? デフパペメンバーの牧野英玄と富安優子も、この研究所を経て、今に至っています。

詳しくは人形劇団ひとみ座までお問い合わせ下さい。

TEL 044-777-2222(平日10時~18時)/FAX 044-777-5111

★現代人形劇センター主催『アジアの人形芝居 4カ国交流』

この企画は2007年、2010年に続く第3弾で、今回はインド・日本・韓国・カンボジアの4カ国の人形芝居が集合します。

ワークショップ 1月21日~28日

レクチャー・デモンストレーション 29日

会場 人形劇団ひとみ座第1スタジオ

詳しくは現代人形劇センター/デフパペ事務所まで。

TEL 044-777-2228/FAX 044-777-3570

公演スケジュール・お知らせ

(1月15日現在)

「森と夜と世界の果てへの旅」

2月19日(日) 愛知県瀬戸市 せとしんエンゼルホール (開演14:00)

5月31日(木) 名古屋市 名古屋市西文化小劇場(開演18:30)

「はこ/BOXES じいちゃんのオルゴール」

2月26日(日) 兵庫県三田市 三田市総合文化センター

郷の音ホール(開演14:00)

「一寸法師」

2月10日(金) 東京都中央区 築地社会教育会館

手話サークルつばさ30周年記念公演(開演時間未定)

「ワークショップ人形で遊ぼう&手話で遊ぼう(やなせ・榎本・牧野)」

2月12日(日) 松本市 子ども社会参画チャレンジスクール

「善岡修ワークショップ」

1月18日(水) 富士吉田手話サークル

2月11日(土) 愛知県額田郡

「善岡修・牧野英玄パフォーマンス」

1月21日(土) 品川区田町 NEC記念行事

★1月24日(火) 川崎市立聾学校

「牧野英玄講演」

1月17日(金) 川崎市 神奈川県ろうPTA交流会

☆印は学校公演です。観劇ご希望の方はデフパペ事務所に連絡下さい。

追加・変更される場合もありますので、詳しくはデフパペ事務所にお問い合わせ下さい。

☆人形劇団ひとみ座創立60周年記念 シェイクスピア3部作第3弾☆

『テンペスト』

場所:全労災ホール/スペース・ゼロ(新宿)

日時:2012年3月23日(金) 18:30 ★終演後にアフタートークあり

24日(土) 14:00/18:30

25日(日)・26日(月)・27日(火) 14:00

※開場は各30分前

★26日・27日は終演後にバックステージツアーあり(30分予定)

各回定員20名。事前申し込みが必要です。

料金:前売 5,000円 当日 5,500円 ペア券 9,000円

ひとみ座倶楽部会員 4,200円 ※全席指定

お申し込み 人形劇団ひとみ座

TEL 044-777-2225(10時~18時 日休)

FAX 044-766-0249

E-mail puppet@hitomiza.jp

前作から3年ぶりとなる、ひとみ座シェイクスピア・シリーズの第3弾『テンペスト』にデフパペメンバーも参加します。基本的に劇団員全員参加で(デフパペもひとみ座の劇団員です)、役者は総勢31人出演します。この人数で一つの芝居を作ることはデフパペでは出来ないことです。更にまた、普段一緒に芝居をすることの無い劇団員の技、呼吸などを感じ、デフパペでは普段見られないことを体験し、新しい発見が出来るとても良い機会です。

その反面ちょっとやり難い面もあります。それは基本的に作品の作り方が違うことです。つまり、耳の聞こえない方に観ていただくという前提がありません。そのため音声言語主体のセリフの多い芝居で、人形の動きだけ、視覚的なものだけで伝えるということが難しくなります。以前はこのような劇団挙げての公演で、一回だけ字幕付きで上演したこともあったということです。しかし、字幕を付けば聞こえない方にも楽しんでいただけるかという、必ずしもそうではありません。やはりどんな作品を創るかという根っこのところから考えて行かなくてはいけない訳で、今後このような作品創りの機会がある時には、もっとデフパペのやり方をアピールし、生かせるようにしていきたいと思います。

さて、ろう者メンバーはデフパペよりも大きなひとみ座という集団、つまり聞こえることが当たり前の集団で自分を表現することになるのですが、それもまた楽しみの一つの様です。実際善岡は、前作『マクベス』のとき、ろう者ではただ一人参加したのですが、コミュニケーションをするのに手話を用いなくても困ることは無かった、逆に手話以外にも色々なコミュニケーションの方法があることが分かったと言います。また自分が聞こえる人たちの中で活動し、活躍することで、他の聞こえない人たちに勇気を与えられる！と考えています。また榎本は自分の得意な身体表現で新しいデフパペ・ファンを作りたいと張り切っています。メンバーの役どころは、善岡は人形遣いで、双子の道化のトリンとキュローの片割れトリン役です。他のメンバーは魔法の島の妖精役です。その中でもやなせは生演奏を担当します。

最後にメンバーの抱負を一言ずつ。

- ★善岡修(道化トリン役・人形遣い): 観ている人がほっとしたり、ぷっと笑ったり、息抜き出来るような場面を作れるよう、頑張ります。
- ☆榎本トオル(妖精役): 自分が演じる妖精のからだを見て下さい!
- ☆牧野英玄(妖精役): 身体の動きで表現する妖精役。人形の存在感を殺さないギリギリのところで目立ちたい!!
- ☆富安優子(妖精役): 妖精役は場面の雰囲気を変える役割が大きいので、人形と一緒にそれを上手くやって物語を盛り上げたいです。
- ☆やなせけいこ(楽師の妖精): 劇団外部の方が作った音楽を演奏するのが楽しみ…新しい発見ができるといいです。頑張るぞー!!
- ☆鈴木文(妖精役・楽器付き): 久々に楽器とお付き合いします。どこまで身体表現と両立できるか……楽しみにして下さい。

デフパペニュース 冬号の目次

新年のご挨拶

デフパペ代表 善岡修

デフパペイズム

ひとみ座シェイクスピアシリーズ第三弾『テンペスト』について

3ヶ月に一度のこんにちわ

メンバーのコラム

今回の担当は、富安優子です。

日々、これ制作……

デフ制作メンバーのコラム

今回の担当は、新人の大里千尋です。

宇野小四郎当用辞典

其二「物一皆歌で終わる」

お待ちせしました! 現代人形劇センター顧問、宇野小四郎氏の随筆シリーズ

お知らせ

公演スケジュール

デフ・パペットシアター・ひとみ

やなせけいこ	森元勝人
榎本トオル	新島英明
善岡修	大木翔吾
鈴木文	大里千尋
富安優子	
牧野英玄	



ろう者と聴者が共につくる

デフ・パペットシアター・ひとみ
DEAF PUPPET THEATER HITOMI

〒211-0035 神奈川県川崎市中原区井田3-10-31(公財)現代人形劇センター

TEL: 044-777-2228

FAX: 044-777-3570

e-mail: deaf@puppet.or.jp

URL: http://deaf.puppet.or.jp/



デフ・パペットシアター
ひとみ

其二「物一皆歌で終わる」

物という言葉が辞書で引いた人っていますか。「物って物だろう。わざわざ辞書のお世話になることもあるまい」などと軽く思っただけはいけません。「物」という題を決めた私自身が辞書を引いて「うーむ」と唸る程複雑怪奇な言葉でございました。

で、我が国で現在通用している当用辞典の類は明治以降欧米の辞典を参考に出発したといふので、1768年ロンドンで発行され、1949年からは米シカゴ大学が改訂版の編集を行っているというブリタニカ国際大百科事典を引いてみた。

曰く「民法上物とは、物権の客体をいい、固体、液体などの有体物がその意味での物とされる。電気ガスなどの無体物は物権の客体とならず物ではないとされる。」しかしながら電力会社の電気やガス会社のガスは勝手に使うと窃盗罪になると注意もしている。

「物」の説明だから即物的なのは当然だが、日本の辞典類はこのような解説の影響を受けているのだろうか。……受けていた！

「新明解国語辞典第六版」の「もの」の項には「狭義では視覚的に捉えられる物質を指し、広義では視覚的に捉えにくい空気・ガスなどの気体をも指す」とある。私はこの新明解を鼻根にしていたが、大滝秀二さんも「最近の新明解はつまらん」と言っているが、

(言っていない) 第一版、昭和47年発行では、物について「存在すると考えられるすべて〔狭義では所有物を指す。例、人の物は俺の物、俺の物は俺の物〕」などと辞書としては不埒な解説をしていたが、此頃は普通の当用辞典になっているので援用には注意してください。(裏面に続く→)

(前ページのつづき)

もう一つの私の重宝している安土桃山の頃の日本語辞典で、タモリのトリビアの泉ではないが思わず「へえ、へえ、へえ」と何回も言いたくなるような解説に出くわす、イエズス会の宣教師が1603年に出した『日葡辞典』を見よう。しかし、物の項を見ても、この言葉は動詞の前に置くのと、後に置くのではその使い方が異なるといった案に相違した平凡な説明が載っていたが、次の行にもう一つmonoという項があって、一行「モノ(物)また時には悪魔を意味する」とあった。編者はバテレンである。悪魔は彼等のキリスト教のサタンと同じものとは限らない。日本の神様だって彼等はサタンと断じたかも知れないのだ。さあ困った。だがお立会い、私には困った時の奥の手の辞典がもう一つあります。大槻文彦『大言海』です。明治15年から大正8年頃までの日本語9万8千語を収めている。これによれば「もの、神の異称、其物の名を指シ定メテ言ハヌヲものト云フ邪鬼(アシキモノ)邪神妖鬼、物ノ氣一」などであるといふ。イエズス会の皆さんお騒がせ致しました。日本語のモノには神と悪魔が境目なく同居していたようです。日本語って曖昧だなあと感心ばかりしてもいられません。これは私自身が五十数年来「人形劇の人形は物である」というセオリーを述べているからです。欧米だって人形劇のジャンルとしてオブジェクト・シアターがあるのではないかというかも知れないが、日本語に訳せば物体劇であって土台が違います。この違いをこれからの人形劇の創造にどう生かすか。というわけで今回は「人形」です。愚痴一言、今回は物が物だけに仲々物にならなかった。

文：宇野小四郎